

# GNU GLOBAL を秀丸エディタから使用するマクロ。

2011 年 5 月 21 日

## 始めに

C/C++で「関数が呼ばれている位置」を一覧表示することが出来ます。

「定義されている位置」ではなく「呼ばれている位置」です。

ctags と GNU GLOBAL の違い

名前	機能	対応言語
ctags	関数が定義されている位置	41 種類の言語に対応
GNU GLOBAL	関数が呼ばれている位置	C/C++/Yacc/Java/PHP4

## 動作イメージ

```
C:\Users\hoge\Documents\test\global-5.9-3\libutil\char.c [Shift-JIS] [LF] - 秀丸
ファイル(F) 変換(C) ウィンドウ(W) マクロ(M) その他(O)
char.c
isregex(const char *s)
>> 0 8 16 24 32 40 48 56 64
48 /*↓
49 * isregex: test whether or not regular expression↓
50 *↓
51 *-> |> s> string↓
52 *-> r> 1: is regex, 0: not regex↓
53 */↓
54 int↓
55 isregex(const char *s)↓
56 {↓
57 >
58 ↓
59 >
60 >
61 >
62 >
63 }↓
64 /*↓
65 * c
66 *↓
67 *->
68 */↓
69 const char *↓
70 quote_string(const char *s)↓
71 {↓
72 > STATIC_STRBUF(sb);↓
73 ↓
```

## 動作環境

- 秀丸エディタ ver8 以降
- 田楽 DLL（そんなに古くなければ大丈夫だと思います）

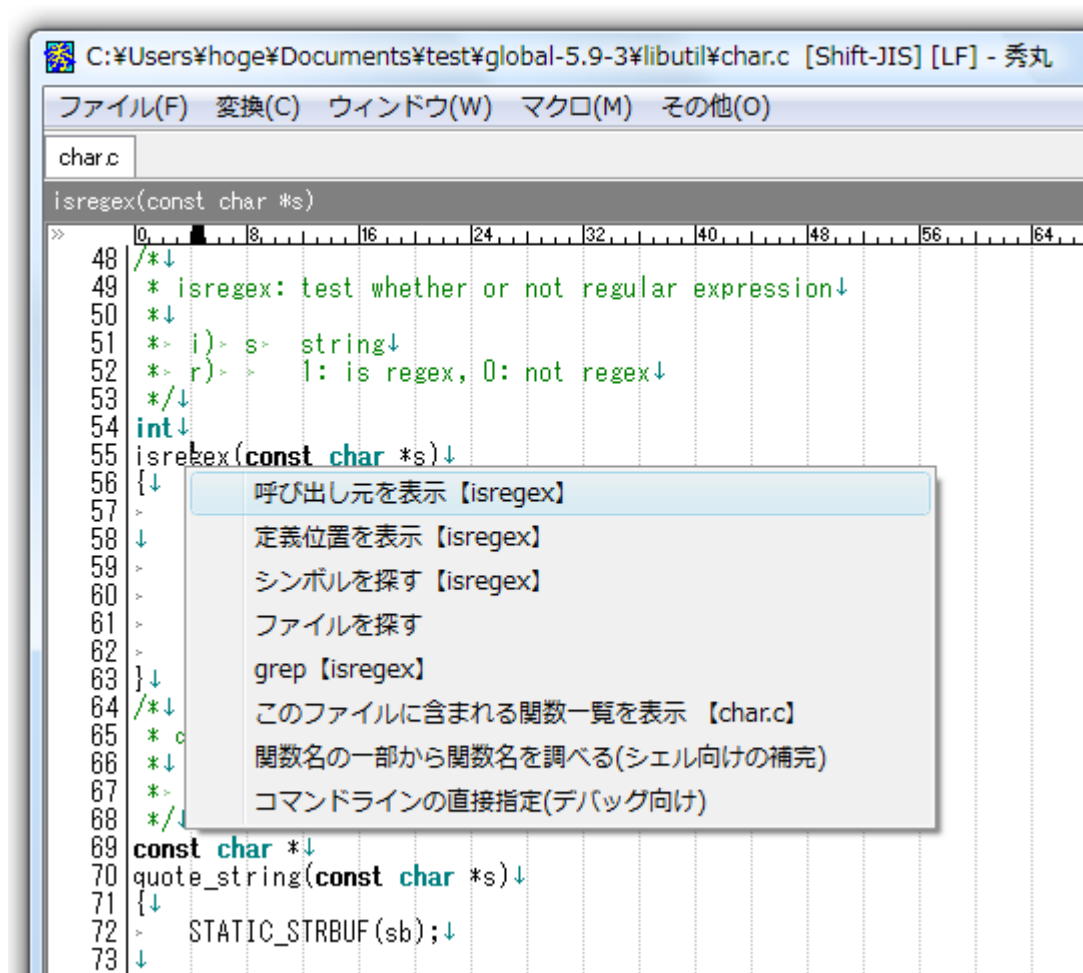
## ファイル構成

gtags_jump.mac	マクロ本体
gtags_wrapper.mac	おまけマクロ
gtags_config.ini	設定ファイル

## 機能一覧

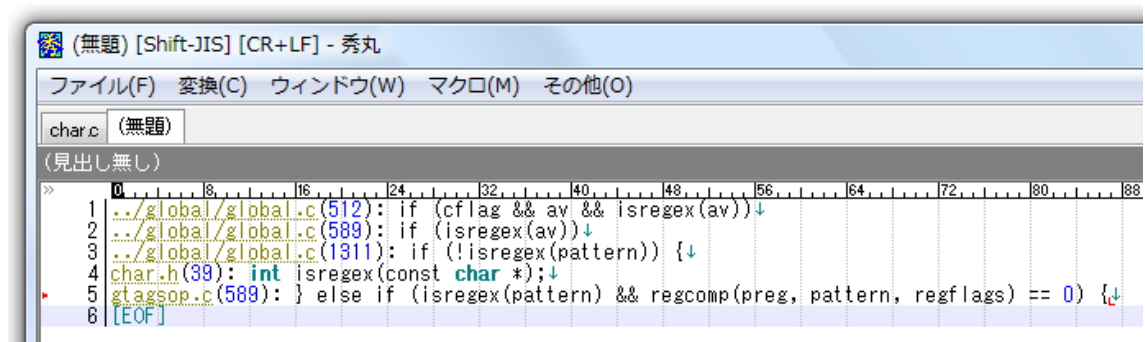
### 呼び出し元を表示

単語の上でマクロを実行するとメニューが表示されます。「呼び出し元を表示」を選択すると・・・

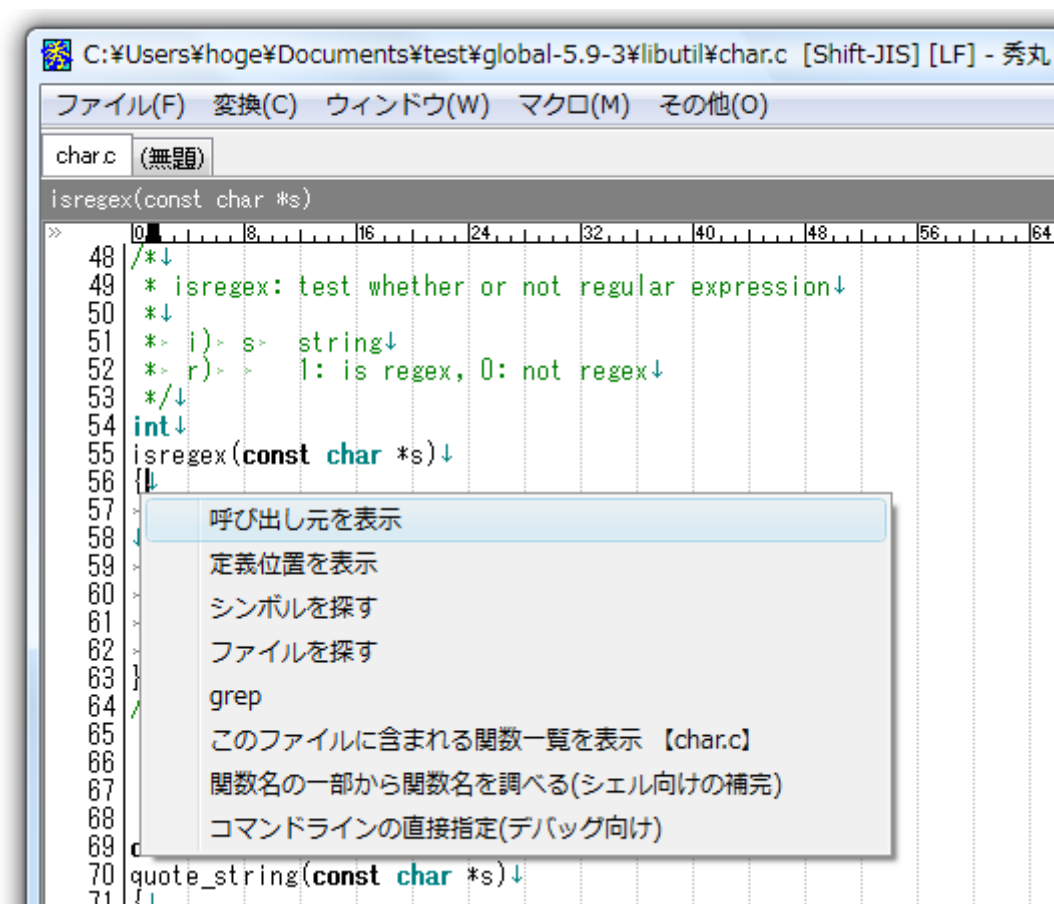


呼び出ししている位置が一覧表示されます。

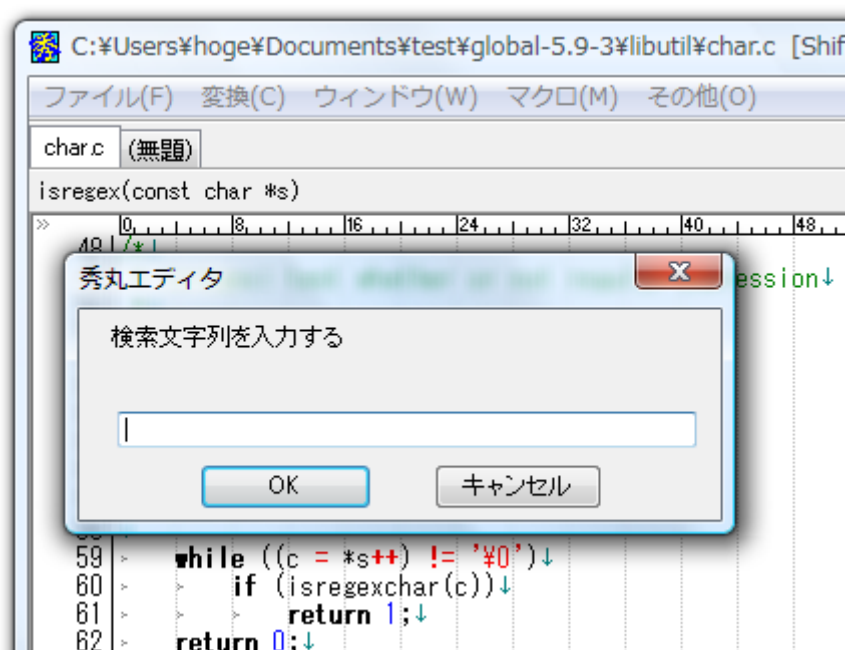
表記は秀丸形式なのでそのままタグジャンプとバックタグジャンプができます。



単語のない位置でマクロ実行すると



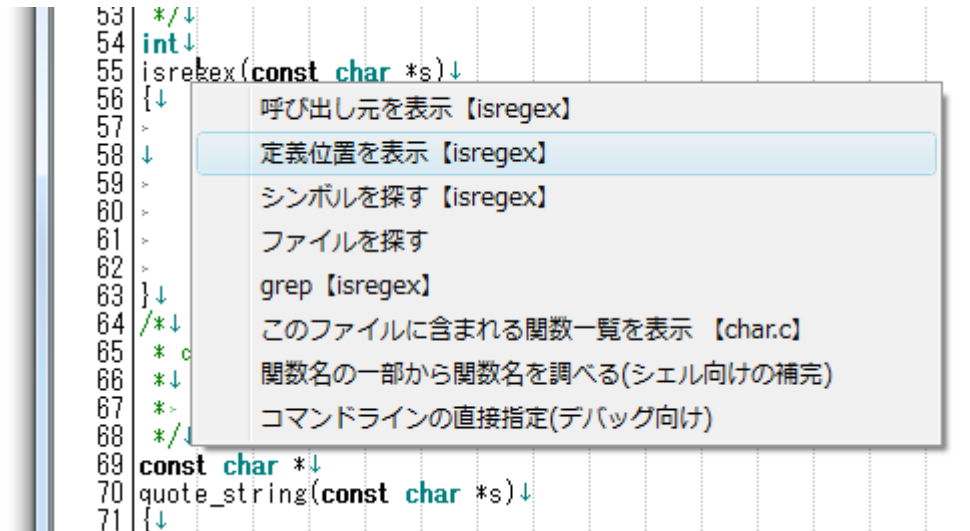
単語入力するダイアログがポップアップします。



任意の関数を検索できます。

## 定義位置を表示

まず使うことはないです。「手風琴さんの CTagsJump」のほうが優れています。  
ついでなので用意しておいた程度です。



## シンボルを探す

グローバル変数とかを探すようです・・・すいませんよく分かりません。

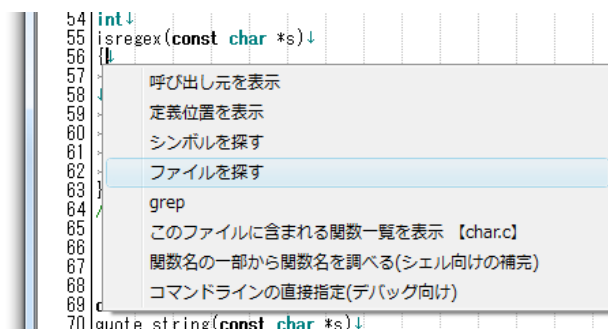


## ファイルを探す

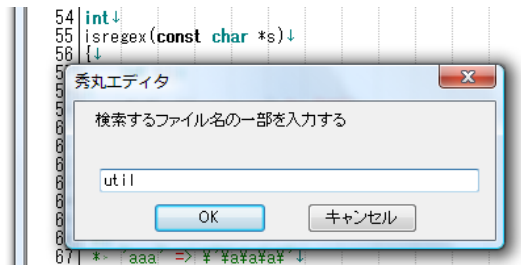
「ファイル名・ディレクトリ名」の一部からファイルを探し出します。例えばユーティリティ系のソースコードは、このような命名規則になっているはずです、

- util\_foo.cpp
- util\_bar.cpp
- util\_hode.cpp

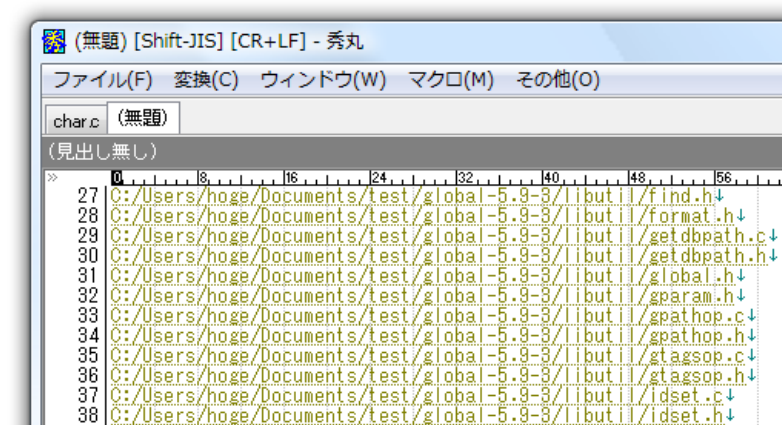
ダイアログに util と入力するだけで一覧表が作られ、すぐにタグジャンプできるので地味に便利です。既にタグファイルが作ってあるのでファイラーでファイルを探すよりも手取り早いです。



util と入力して、



util の検索結果

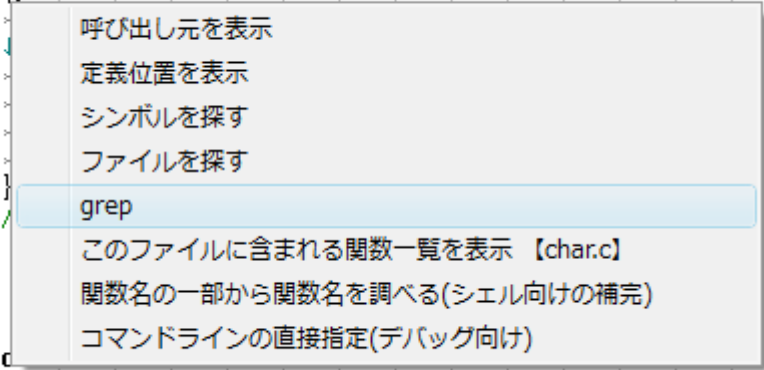


地味に便利です。

## grep

grep です、格段に高速動作というわけでもなさそうなのでまず使いません。ついでなので用意しておいた程度です。

```
55 isregex(const char *s)↓
56 {
57     ↓
58     ↓
59     ↓
60     ↓
61     ↓
62     ↓
63     ↓
64     ↓
65     ↓
66     ↓
67     ↓
68     ↓
69     ↓
70 quote_string(const char *s)↓
71 {
```

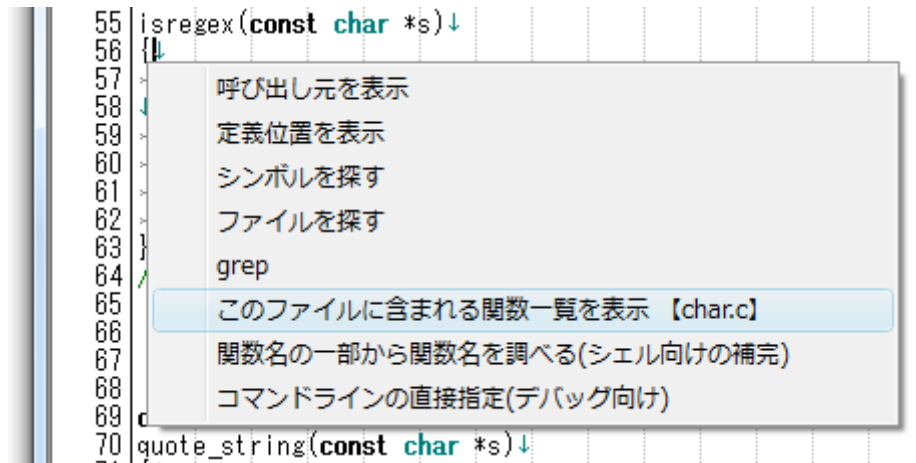


- 呼び出し元を表示
- 定義位置を表示
- シンボルを探す
- ファイルを探す
- grep
- このファイルに含まれる関数一覧を表示 【char.c】
- 関数名の一部から関数名を調べる(シェル向けの補完)
- コマンドラインの直接指定(デバッグ向け)

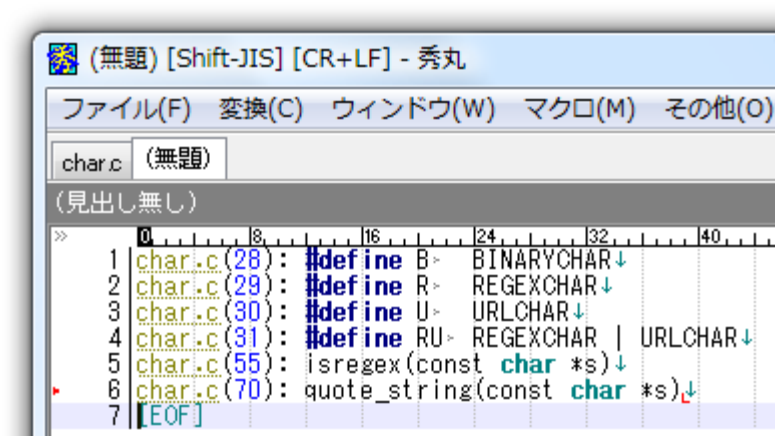


## このファイルに含まれる関数一覧を表示

秀丸エディタにある機能なのでまず使いません。これもついでなので用意しておいた程度です。

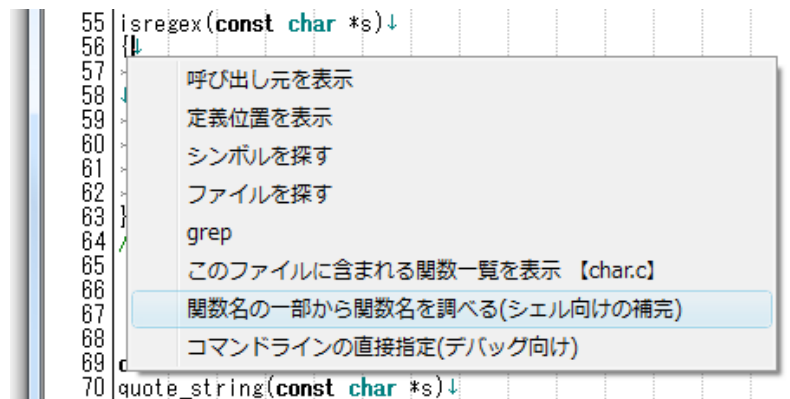


結果

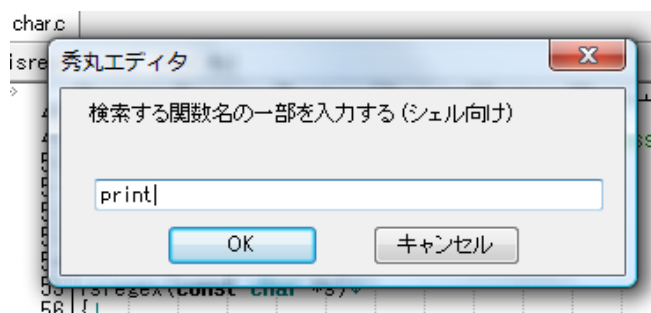


## 関数名の一部から関数名を調べる

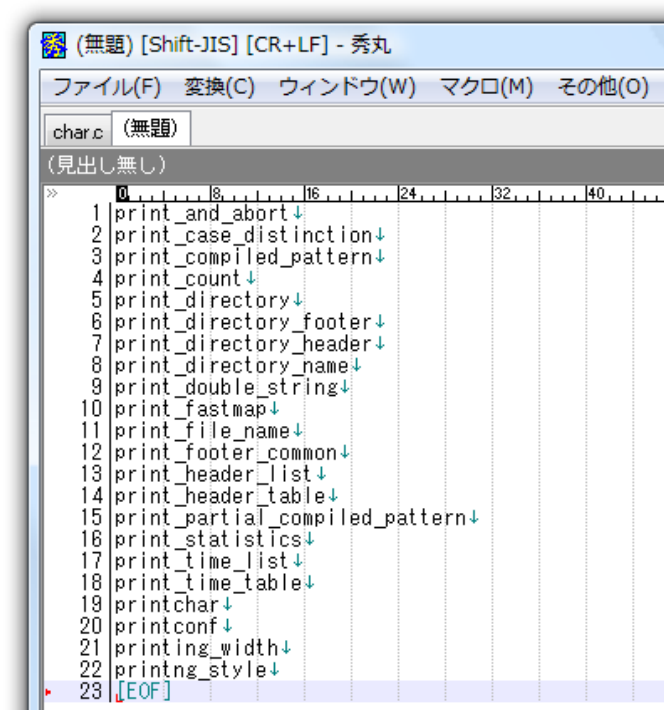
bash 等で利用可能な補完リストを作るそうです。これもついでなので用意しておいた程度です。



print を入力。



補完リストが生成されます



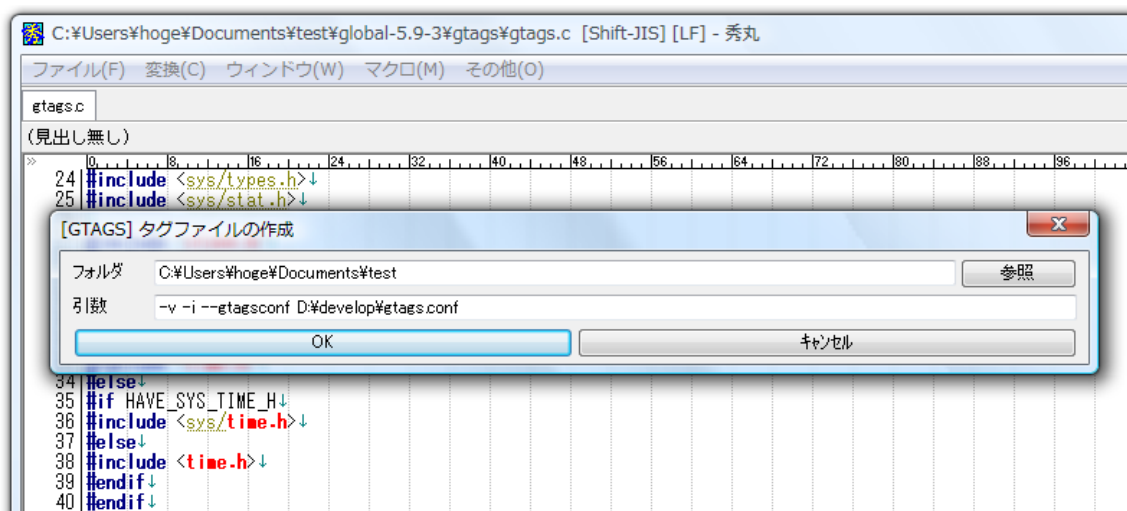
## コマンドラインの直接指定

global コマンドのコマンドライン引数を直接指定します、デバッグを想定しています。

--help を指定した結果、

## tags ファイルを作る GUI ラッパー

ダイアログから gtags コマンドを起動するマクロです。



## 設定ファイル(.ini)

設定ファイル(gtags\_config.ini)で多少のカスタマイズが効きます。

```
[Search]
;GNU Global で何も見つからなければ下記パスから再検索する
;0-9 まで指定可能
Path0=D:¥project¥my_lib¥trunk
Path1=K:¥project¥boost¥
Path2=K:¥foo¥bar¥stlport
```

開発用ディレクトリが「複数パス・複数ドライブ」にまたがっていても、それなりにうまく検索できます。

## 注意

- タグファイルを作った後にソースコードを編集すると行がずれます、**gtags** は行番号で覚えているようです。我慢できなくなったらタグファイルを作り直してください。
- あらかじめ **GNU GLOBAL** をコマンドラインから動くようにしておいてください、そうしないとマクロが動きません。「まずコマンドラインで動かす！」これが基本です。

## 最後に

「手風琴さんの **CTagsJump** をメインで使いつつ、本マクロをサブで使用」という使い方を想定しています。